

介護予防体操 先生はロボット

写録 2017



「私と一緒に体操をしましょう」「さあ腕を伸ばして」。こう呼び掛け、介護予防体操のインストラクターを務めるのは一体の人型ロボットだ。人間さながらの滑らかな動きと陽気な口調。指導を受けた高齢者十数人の一人、加藤ツヨコさん(99)は「まさか『お人形さん』と一緒に踊る時代が来るとはねえ」。

ここは社会福祉法人「宏喜会」(福山市)が同市で運営するサービス付き高齢者向け住宅(サ高住)の一室。ロボットはソフトバンク製「Pepper(ペッパー)」だ。体操メニューをインターネッ上で入手して実演する性能を持ち、職員がメニューを考える負担を軽減するほか、模範演技をペッパーに委ねることで個々の利用者に細かな目配りができるメリットがあるとして9月に導入した。

高齢化に伴い、介護職の担い手不足が懸念されている。厚生労働省推計によると、団塊世代が75歳以上となる2025年度には介護職が全国で約38万人、うち広島県で約7千人、岡山県で約6千人が足りなくなるとされ、人材難を背景に、今年11月には介護現場での外国人技能実習を可能とする改正法が施行される。

サ高住の光成謙二施設長は「現在は職員をしっかりと確保できているが、将来への危機感は強い。ロボットに仕事の一部を担ってもらい、職員がより働きやすい環境にしたい」と期待を寄せる。

(洞井宏太)